

# 高津区ものづくり 企業MAPの見どころ

見どころをよく読んで  
「高津区のものづくり企業」  
をしっかり勉強しよう!



■高津区には、優れた技術を持ったものづくり企業がたくさん集まっています。多くの人や企業が活動し、人々のニーズをつかみやすい大都市に近い地域は、豊かな生活に必要なものを開発・製造するのに適しているからです。

■「オンリーワン」の技術力で部品や製品を作っている企業には、いわゆる「町工場」と呼ばれる企業が少なくなく、その中には特定の分野で世界的に有名な企業や発明家もいます。また、部品や製品は、多くの町工場がそれぞれ得意な技術を持ちより、協力する「分業」によって作られています。

■そんな高津区では、近年、町工場のまわりに住宅が増えてきています。将来も豊かな暮らしを続けていくためには、町工場と住民が仲よくしていくことが大切です。

■この冊子は、区内の優れた技術を持った企業や私たちに身近な製品を作っている企業を多くの人に知ってもらい、「住工共生のまち（住民と町工場が仲よく一緒に暮らすまち）」づくりが進むことを目指して作成しました。

## 日本の産業を支える「町工場」

欧米諸国に比べて、日本は中小企業で働く人が多い国です。これは、「町工場」と言われる中小のものづくり企業がそれぞれ得意な技術を生かして特長のある部品を作り、それらを優れた技術力で組み立てて製品にする「分業」というシステムが確立されたためです。

社会が豊かになると、人は自分の好みにあった、もっと便利な製品を求めるようになります。ものづくりは海外の企業に任せればよいと考える人もいますが、高度化・多様化した社会のニーズに早く・的確に対応していくためには、国内の大都市に近く、優れた技術と「分業」システムを持つ「町工場」の活躍が欠かせません。

私たちが快適に生活・活動していくために、「町工場」は重要な役割を果たしているのです。



## 高津区に町工場がなぜ集まったのでしょうか

川崎市の工場の約 28%は川崎区にあります。海の方に行くと広大な埋立地があり、大きな石油コンビナートやいろいろな工場が建っています。

そして、川崎区の次に工場の数が多い区が高津区になります。工場以外にもたくさんの会社がありますが、高津区は会社に占める工場の割合が約 12%と最も高く、川崎市の中でも工場の多い町と言えます。では、高津区の工場はどこにあるのでしょうか。高津区には埋立地のような広い場所はありませぬ。高津区では、「町工場」と呼ばれる小さな工場が、住宅の近くで数多く活躍しているのです。

南武線の開通や、東急田園都市線が溝の口駅まで延びるなど、高津区では昭和初期に鉄道が充実しはじめ、この頃から工場が増えていきました。当時は戦争の影響で軍関係の仕事が中心でし

たが、戦後には人々の生活を支える製品を作る工場として成長し、その中から大企業や有名企業も生まれてきました。そして、先の東京オリンピックが終わり、第三京浜が開通した昭和 40 年頃になると、「町工場」がたくさん集まってきた、「ものづくりのまち高津」の原型が作られました。



区分	工場の数	全ての会社に占める割合
川崎市合計	3,299 (100.0)	(7.7)
川崎区	910 (27.6)	(8.0)
幸区	378 (11.5)	(7.8)
中原区	572 (17.3)	(7.8)
高津区	733 (22.2)	(11.8)
宮前区	308 (9.3)	(7.0)
多摩区	226 (6.9)	(4.4)
麻生区	172 (5.2)	(4.6)

出所：経済センサス 2014

## 区内工業団体

### 【協同組合高津工友会】

昭和21年(1946年)に工場で使用材料などを共同購入するために設立されました。町工場と行政のつなぎ役や、地域のまちづくり団体としての役割も果たしてきました。現在は区外の企業も含む約300社が活動しています。

### 【下野毛工業協同組合】

下野毛は果樹園や畑が広がる地域でしたが、昭和30年代に入ると大手企業の工場や社員寮、公営住宅が建設されました。その後、町工場が集まり、昭和49年(1974年)に設立されました。現在はオープンファクトリーや下野毛ふれあいフェスタを開催するなど、地域住民との交流を進めています。

### 【一般社団法人川崎北工業会】

久地・宇奈根も果樹園や畑が広がる地域で、砂利採掘も盛んでした。昭和30年代以降に町工場が集まり、未整備であった道路などの整備を市に働きかけたことが設立のきっかけになりました。現在はオープンファクトリーや納涼祭など地域を盛り上げる活動をしています。

## 「高津ものまちづくり会」と住工共生の取組

久地・宇奈根、下野毛の準工業地域では、工場跡地に住宅の建設が進んでいます。そこで、町工場を中心とする地域の工業団体は、町工場と住民がお互いに理解を深めることが大切であると考え、これまでにお祭りの開催や小学校の社会科見学の受入などを行って来ています。「高津ものまちづくり会」は、地域住民との交流をさらに深めるために平成 24 年(2012 年)に発足しました。「川崎北工業会」、「下野毛工業協同組合」を中心に、地域に愛される「川崎フロンターレ」の協力を得て、「専修大学経済学部遠山ゼミ」の視点から分かりやすい情報発信を行い、高津区役所とも協働して、「住工共生」の取組を進めています。

